



男女共同参画社会における子育て

乳児用液体ミルク導入に向け、母乳育児の支援と保護体制の構築促進に対する要望書

より

災害時の母と子の育児支援 共同特別委員会



母乳育児支援による日本の医療費削減効果

液体ミルク導入と母乳育児への支援・環境整備

災害に備えて液体ミルクの製造・輸入の環境を整える



乳児の将来の肥満や糖尿病の予防効果



9割以上の女性が母乳で育てたい。
実情は正確で十分な情報提供と支援が不足



支援がない中で乳児の生命維持には自助としての母乳が重要。母親に自信を与え、その不安をなくすようなエモーショナル・サポート



母親の糖尿病や乳がん子宮がんの罹患率低減効果



支援と安全性
母乳代用品は…
* 医学的必要時
* 適切な情報提供をもとに選択



被災地では母乳代用品が必要な場合には粉ミルクよりも液体ミルクがより安全。災害に備えて液体ミルクの製造・輸入の環境を整えることが必要



医療費を抑制



世界保健機関：
不正確な広告を規制することや、安全に使用するための表示義務が推奨



平時から母乳で育つ子が増えれば 災害時には母乳代用品が必要な子に手厚い支援

要望します！



乳児用液体ミルクを日本に導入するためには、母乳育児への支援と保護の環境整備とセットとし、不正確な広告への規制と安全使用を担保するルールを併せ備えた適切な乳児栄養法への支援体制の構築が急務であると考え、以下の事項を要望いたします。

1 男女共同参画を実現させるにあたり、男性も含めた社会全体への乳児栄養についての教育・情報提供

父親が授乳以外の多くの面で赤ちゃん和交流することにより、父親と赤ちゃんとの絆を大いに深めることが確認されています。父親と赤ちゃんならではの絆が形成され、赤ちゃんは食べ物（授乳）のない関係からも愛が得られることを知り、多様な関係を学んでいくことができます

2 授乳の権利の保証、母乳育児を継続しながら女性が活躍できるような職場保育環境の整備・支援

母乳中の免疫成分は授乳を続ける限り供給されるため、子どもが病気にかかるリスクが少なくなり、看病のための親の欠勤も少なくなります。産後休業や育児休業が長く取れるほど母乳育児が継続しやすいたことがわかっており、また職場復帰しても職場や保育所の理解があれば少しの工夫で母乳育児を継続することができます

3 女性が家族の健康と状況に最もふさわしい納得した選択ができる法制的整備

商業的な影響のない支援を十分に受けた上で、母乳代用品が必要な場合もしくは母乳代用品の使用を選択する場合は、母親が罪悪感をいだかずに適切に使用できる支援がされるべきです。母乳で育てたくない、あるいは母乳で育てることができない女性が非難されたり、責められたりすることのない社会の価値形成と体制づくりが必要です

4 災害時あるいは防災の観点から乳幼児栄養についての適切な情報提供と支援体制の確立

母乳を産生するホルモン（プロラクチン）は災害などのストレスがあっても変わらず作用し母乳を作り続けますが、母乳を出すホルモン（オキシトシン）はストレスや不安によって一時的に抑制されることがわかっており、そのような時にこそ母親に自信を与え、その不安をなくすようなエモーショナル・サポートを提供できる支援体制を作っておくことが大切です。

さらに詳しい情報は全文をごらんください